

令和7年度 前期

政務調査研究報告

飯田市議会公明党

報告者 岡村弘子

視察先・調査事項

1.三田観光ビジョン「三田ふるさと未来図」について

日時 令和7年8月19日 9時30分～11時00分

場所 兵庫県 三田市

説明 産業振興部(農業委員会事務局) 次長 寛長 雅博 氏
まちのブランド観光課 課長 上月 研一氏

2.「おの(小野市)夢と希望の教育」について

日時 令和7年8月19日14時30分～16時30分

場所 兵庫県 小野市

説明 小野市教育委員会 教育指導部長 藤井 潤 氏
主幹 福本俊也氏

視察先・調査事項

3.「医療的ケア児(者)支援に対する取組み」について

日時 令和7年8月20日 10時15分～12時00分
場所 兵庫県 南あわじ市
説明 市民福祉部福祉課 課長 澤田 晋吾氏
障害福祉係 西川 純歩氏他

「議員の資質向上と議会運営の基本」参加

2025年 新人議員特別セミナー i n 飯田
場所 さんとぴあ飯田 令和7年8月21日
講師 自治体議会研究所代表 高沖秀宣氏

三田観光ビジョン「三田ふるさと未来図」



兵庫県 三田市の概要



- ・人口 約105,774人
- ・面積 約210.2km²
- ・1987年から10年間ニュータウン開発が進み人口増加率が日本1位(現在は少子高齢化・若者流出の人口減少が課題)農業が盛ん
- ・市木「あかまつ」
- ・市花「さつき」
- ・観光 「有馬富士公園」
「青野ダム(千丈寺湖)」
「三田市野外活動センター」 等

★令和3年度から令和8年度 三田市観光ビジョン『三田ふるさと未来図』の概要

(1)基本理念

- ①農村・市街地・ニュータウンからなる街の魅力を、それぞれの背景にある重層的な歴史や生活文化をふまえて、三田ならではの多様なストーリー性のあるコンテンツに磨き上げます
- ②チーム三田で協働し、地域の魅力をつないで発信します
- ③三田ファンを増やし、まちの活性化を図ります

(2)基本方針・施策の方向性

- I .見つめる「魅力あるコンテンツづくり」
 - ・ストーリー性のある三田らしい観光コンテンツの磨き上げ
 - ・観光コンテンツの周遊ルート化
 - ・社会情勢に応じたコンテンツづくり
- II .広がる「地域の魅力を発信」
 - ・旅マエ、旅ナカ、旅アトの観光情報の整備・発信
 - ・人の魅力で発信
 - ・多言語による情報発信
- III .つながる・育む(ネットワークづくり、人材育成)
 - ・ネットワークとプラットフォームづくり
 - ・環境整備
 - ・人材育成・組織強化

(3)推進体制

観光に携わるすべての主体者が、連携、協働して推進します

○行政

観光まちづくりのためのネットワークづくり、仕組みづくり

○観光協会

アクションプランの実現に向けた先導と事業者の支援

○事業者・団体

多様なつながりを活用した創意工夫にあふれた事業の展開

○市民

暮らしの中にある地域の魅力を見つけ、楽しみ、発信

(4) 三田市の観光の課題

- ①観光資源が点在し、連携した取り組みが十分にできていない
- ②三田市の観光に関する情報整理が不十分で、効果的に情報発信ができていない
- ③市民が三田の魅力に気づいておらず、十分に楽しみきれない

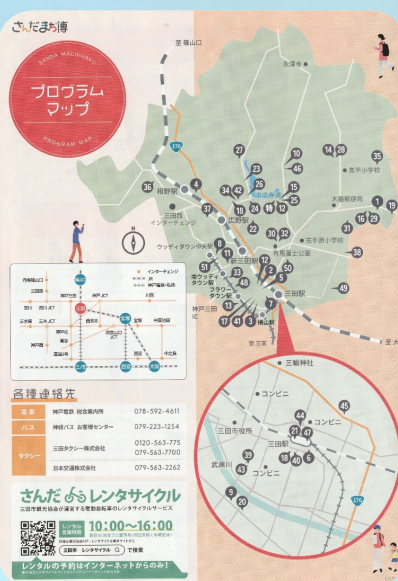
「さんだまち博」

～三田市内の様々な観光コンテンツを掘り起こし・磨き上げ・つなげて発信する取り組み～

- プログラム主催者への研修会 ⇒ プログラム主催者同士のつながりづくり
- 神姫バス活躍 ⇒ 周遊プログラム構築 交通アクセスの課題改善
- さんだまち博独自のＨＰ さんだの魅力を市民に発信
- パンフレット17000部を市内外に配布 ⇒ 参加者の半数以上が市内
- パンフレット市内の小学校全生徒に配布 (令和6年度 市内55,0% 市外44,7% 不明0.2%)

さんだまち博

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
開催期間	30日間	30日間	30日間	51日間
設置プログラム数	11	33	40	52
	11主催者	29主催者	38主催者	51主催者
延べ設置プログラム回数	22回	58回	91回	139回
開催プログラム数	10	31	39	50
延べ開催プログラム回数	21	52	66	102
参加人数	249	529	804	1120



三田市 視察 まとめ



・三田市の観光の課題が、飯田市と非常に似ており、様々な観光コンテンツを掘り起こし・磨き上げ・つなげて発信していく取組みである「さんだまち博」は非常に参考になった

・コロナ禍以前の観光を基準に考えた場合、市における観光入込客数や宿泊数や公式インスタグラム数や外国人案内件数などを見た時に、明らかに取組みが効果的であったことが明確になった

・若者の移住に直接的な事例はないものの、学生が就職でUターンで戻りたくなる誇りと愛着を持つための取組みになっていると思われた

・三田市の取組を参考にし、飯田市の今の取組みを大きく崩さず必要な部分を追加することが出来たら良いと感じた

「おの（小野市）夢と希望の教育」



兵庫県 小野市の概要



人口：46,628人

世帯数：21,110世帯

高齢化率29.58%(2024.3)

面積：92.94km²

市木 「やなぎ」

市花 「ひまわり」

古くからそろばんの一大生産地

家庭用刃物や伝統工芸品の生産拠点通しても有名

神戸市姫路市の二大都市のベッドタウンとしての機能を持つ

小野市 基本理念

「国際社会の中で たくましく活躍できる 心豊かで自立した人づくり」

少子高齢化・人口減少社会、グローバル化、高度情報化、食料・資源問題などの急速な社会情勢の変化の中で、未来を切り開く原動力は人づくり、すなわち教育である。

脳科学に基づく教育について

東北大学教授 川島隆太氏

平成17年10月、小野市教育行政顧問に就任

「脳の司令塔」である「前頭前野を鍛える」ことは

「生きる力」を育み、心の教育につながると提唱

重点施策 I

★おの検定

- 基礎学力を定着させ、豊かな心を育む学習システム
漢字・計算・英語
- 「おの検定」⇒ 小中一貫教育、主体的な学び、家庭学習の習慣化
(平成16年～小中学校統一の独自検定 市民検定も実施)
検定は1年に3～4回実施 採点は教育委員会
⇒結果を学校に戻し、挽回を図り再挑戦できる
家庭頑張りカードを使用 計画的に勉強することを推進
- 「おの検定（体力）」⇒ 縄跳び運動で基礎体力を向上
継続した運動習慣の確立
- 全国学力学習状況調査では正解率も全国平均を上回る

重点施策 Ⅱ

★小中一貫教育

- 9か年の学びのつながりを大切にした教育
(平成16年～小中連携教育)
(平成27年河合中学校区開始)
(平成28年～市内全校区小中一貫校へ)
- 脳の発達新时期(10歳の飛躍)と学習内容の高度化に対応
- 小学校高学年の教科担任制
⇒学力向上と自立に向けた社会性の育成
- 小野市内小学校8校、中学校4校、私立の特殊支援学校1校の計13校。各中学校区⇒地域の特色を生かした共通の教育目標、一貫したカリキュラム作成

重点施策 Ⅱ

★16か年教育について

- マイナス1歳から15歳までを対象
- 家庭教育を支援⇒基本的生活習慣の確立「生きる力」の基礎の育成目的
- 睡眠、食事、コミュニケーションは脳を発達させ親子の愛着形成にはコミュニケーションが不可欠
- 脳科学理論を軸に子供、保護者、地域、先生方が一緒に学び、成長を目指している

重点施策 Ⅲ

★小野市型学力向上

○授業改革⇒活用・探求型の学力向上

○理数教育の充実⇒科学的思考、態度を育む理想教育、理数探求特別授業

○外国語活動の推進⇒小1年生から実施、全小中学校へALT配置

★教育環境の整備

○行政と議会の理解によって、小野市の教育が着実に進展

○全教室に空調設備完備（平成23年度）

○全校生1人1台タブレットの完全配備 市内全校にWi-Fi完備

小野市 視察 まとめ



・小中一貫教育は子供、家庭環境、保護者、地域の情報共有を小中連携にて進めることが、子供を地域社会で育てる基礎になる事を学んだ。

・川島教授の脳科学という知見を生かし、教育の軸として取り組むことで、子供の学力向上の成果が出ている事で納得できる。さらに、家庭学習や日常が子供の成長に生かされていくと感じた。

・各家庭にあった取り組みの工夫がされていると思うが、教育の格差を少なくしていけるよう期待する。

・デジタル技術の教育について、使い方の選択を考えていく必要があると感じた。

医療的ケア児（者）支援に対する取組み



兵庫県 南あわじ市の概要



人口：43,201人

世帯数：20,001世帯

高齢化率36.96%(2025.8)

面積：229km²

市木 「黒松」

市花 「日本水仙」

淡路島の南部に位置

神戸から車で約1時間

大阪から車で約2時間

特産品 淡路島玉ねぎ 淡路ビーフ

島内三市 淡路市・洲本市・南あわじ市

あわじ医療的ケア児のみちしるべ 発刊までの経緯

発行元 淡路島内三市（淡路市・洲本市・南あわじ市）
淡路障害者自立支援協議会の医療ケア児等コーディネーター班
令和6年8月に完成

医療的ケア児・家族の声（困りごと）

- ・退院してきたけど、誰に相談したらいいの。
- ・地域で保育園や学校に受け入れてもらえるかわからない。

前例がないって断られちゃった。
繋がるまでに時間がかかった。

医療的ケア児と家族の困り事を解決するため！

医療的ケア児（者）に特化したガイドマップを作ろう！

あわじ医療児ケア児のみちしるべ 発刊までの経緯

テーマは「つながる」

当事者が辛くなった時に開いて解決の糸口が見つかるように。
日々の生活で精一杯の当事者や家族が、先の見通しを考えられるように
『あわじ医療的ケア児のみちしるべ』と命名

特に工夫したこと

- ・担当の相談支援専門員や医療的ケア児コーディネーターが、アンケートを使い聞き取り調査開始
- ・ライフステージごとに、誰に、どのように、どう繋がればいいのか明確にする
- ・各支援者の役割を明確化する
- ・バックに入るようなサイズ
- ・医療機関、保育園、学校、淡路島外の医療機関にも配布している
(淡路島外の医療機関には、治療を受けている方が淡路島に戻ってくる時に相談できる場所、つながる人を知るきっかけにしており、ガイドブックをはいない)

あわじ医療ケア児のみちしるべ 発刊までの経緯

- 目次**
- ①医療的ケアとは
 - ②支援者とその役割について
 - ③退院に向けて準備する事
 - ④生活の中で受けられる支援
 - ⑤災害時の対応
 - ⑥相談窓口



医療的ケア児の実態把握

- ・三市には現在10名の医療的ケア児を把握している
- ・新生児から医療的ケアが必要な方⇒保健師が把握
- ・南あわじ市では市内生活支援検討会(就園、就学、就労時)関係者に来てもらい検討する
- ・途中から医療的ケア児になった方の把握は不十分
- ・保健師や福祉課が窓口になっている事が多い
- ・医療的ケア児コーディネーター班は年4回研修開催(5年ほど前から)
- ・医療的ケア児コーディネーター養成研修修了者は現在30人

居場所に対する取り組み

事例

24時間酸素が必要なAさん 19歳

- ・ 保育園に行きたい⇒保健師、行政等関係者会議
本人の情報を整理したサポートブック作成
- ・ 緊急時の対応や、情報登録カード(消防、病院、かかりつけ医など)
- ・ 小学校入学時には学習保証のため、病弱児学級を設置
- ・ 酸素ボンベ交換時のみ訪問看護師施行
- ・ 中学はコロナ流行ありオンライン
- ・ 高校は通信制
- ・ 現在大学1年生⇒就活やその後の生活について相談中

南あわじ市 視察 まとめ



・ 淡路三市(南あわじ市・淡路市・洲本市)において医療的ケア児は10人であるが、人数に関係なく医療的ケア児やその家族の困り事の解決に向けて三市が協力して取り組み、一人一人に寄り添うことの大切さを再確認した

・ 淡路障害者自立支援協議会の組織が対象者に合わせた部会で構成され、それぞれの支援が充実していることに感心した

・ 淡路地域福祉サポートマップを軸に、手弁当で続けていた取組が形になった。関係者の継続した取り組みの大切さを実感した

・ 飯田市における医療的ケア児や家族の不安解消につながる取組が深まるように、視察を生かし今後につなげていきたい

ご清聴ありがとうございました

